

科目名		政治学特殊講義Ⅱ	
担当教員	丸山正次	科目区分	選択必修科目
開講区分	後期	単位数	2単位
曜日時限	金曜・1時限	開講年次	1年
到達目標	市民生活を送る上で基本となる政治的な価値をめぐる近代的なイデオロギーについて、正確な理解と応用能力を育成する。		
授業概要	<p>フランス・フクヤマの『歴史の終焉』（1992年）は、著名な本の宿命として、表題だけで中身が判断されているきらいがあるが、かれは「歴史が終わる」と言っているわけではもちろんないし、単に「資本主義が勝利して、社会主義が敗北した」と言っているわけでもない。歴史がある方向に収斂していく、とくに、政治的な自由民主主義へと世界は向かっていくことを主張した。</p> <p>この指摘が、はたして的を射ているのか否かはそれぞれ歴史が示すことになるが、この人類の歴史を考える際に、私たちが見落とすことができないもの、それが、人々を駆り立てるイデオロギーである。わたしたちは、日常的にはイデオロギーを意識することはほとんどない。自分たちの生活が「当たり前」であるかぎり、その当たり前のものを問い直すことは普通しないからである。ところが、その生活が必ずしも当たり前ではないことに気付くと、私たちは自分が持っている「観念」、「価値観」、「考え方」を再考することになる。この距離を置いて「観念」を問うこと、これがイデオロギー研究となる。</p> <p>21世紀はまだ始まったばかりであるが、20世紀には人々を駆り立てたいくつかのイデオロギーが登場した。それらは、自由主義、社会主義、保守主義という、政治の基本イデオロギーとさまざまな形からみあいながら、独自の主張を展開してきた。それらの考え方は、21世紀における政治にもおそらく大きな影響を与え続けると思われる。この授業では、今世紀においても重要な意味を持つであろうと予測できる現代イデオロギーを講じることによって、私たちが進むべき政治的方向性を考察することにしたい。</p>		
授業計画			
回数	内容		
第1回	ナショナリズムの概念		
第2回	ナショナリズムの変容		
第3回	インターナショナリズム		
第4回	ファシズムの歴史		
第5回	ファシズムの思想		
第6回	アナーキズム		
第7回	フェミニズムの歴史		
第8回	フェミニズムの類型		
第9回	公共性		
第10回	公共性の展開		
第11回	公共性と議会政治		
第12回	正義		
第13回	持続可能性		
第14回	シティズンシップ		
第15回	現代のイデオロギー状況		
準備学習等 (課題・予習・復習・調査等)	指定されたテキストを熟読し、指定された部分についてのレジュメを作成してくる。		
評価方法・基準 ・講評の方法	①授業時でのレジュメの報告と討議(60%)、②最終的なレポート(40%) 講評についてはメールやLMSなどの手段を使ってフィードバックする。		
テキスト・参考書	川崎修・杉田敦編著『現代政治理論』(有斐閣, 2012年、¥2000)		
前年度の授業を ふまえた今年度 の授業方針	受講生の知識・語学能力レベルに合わせた質問・説明に努める。		

学生への メッセージ	政治学を学部で学んでいなくても、学習可能になるようにするが、予習は必ずしてくること。
授業に参考と なるサイト	授業のなかで指示する。
関連する画像	
その他・備考	